

指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	津山文化センター
(2) 指定管理者	所在地 津山市山下68番地 津山文化センター内 名称 公益財団法人津山文化振興財団 代表者 理事長 浮田 佐平
(3) 公の施設の所管部署	津山市教育委員会生涯学習部文化課
(4) 指定期間	平成26年4月1日 ~ 平成31年3月31日
(5) 評価対象期間	平成30年4月1日 ~ 平成31年3月31日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	休館のため利用無し（前年度80,979人）
(2) 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理業務及び自主文化事業等 （自主文化事業及共催事業） <li style="padding-left: 20px;">津山文化センター休館のため、自主文化事業の開催はなし。 <li style="padding-left: 20px;">市内文化団体への舞台音響や照明等の技術の提供や舞台製作・設置のサポートを行った。 <li style="padding-left: 20px;">2018津山市民音楽祭、宝くじ文化公演「大阪交響楽団と若き俊英ピアニスト牛田智大による名曲コンサート」、情熱のシャンソン、津山文化協会芸術文化祭ステージ発表会 ・年間稼働率0%（前年度96.6%）

3 収支の状況

(1) 収入 （指定管理者の収入）	総額 14,515千円（前年度46,839千円） 指定管理料 14,150千円 利用料金収入 0千円 その他の収入 365千円														
(2) 支出 （指定管理者の支出）	総額 14,581千円（前年度38,418千円） 主な支出 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr><td>人件費</td><td style="text-align: right;">9,640千円</td></tr> <tr><td>光熱水費</td><td style="text-align: right;">1,756千円</td></tr> <tr><td>修繕・消耗品費等</td><td style="text-align: right;">233千円</td></tr> <tr><td>委託料（施設管理費）</td><td style="text-align: right;">168千円</td></tr> <tr><td>事業費</td><td style="text-align: right;">0千円</td></tr> <tr><td>負担金・公租公課</td><td style="text-align: right;">55千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2,729千円</td></tr> </table>	人件費	9,640千円	光熱水費	1,756千円	修繕・消耗品費等	233千円	委託料（施設管理費）	168千円	事業費	0千円	負担金・公租公課	55千円	その他	2,729千円
人件費	9,640千円														
光熱水費	1,756千円														
修繕・消耗品費等	233千円														
委託料（施設管理費）	168千円														
事業費	0千円														
負担金・公租公課	55千円														
その他	2,729千円														

4 総合評価結果

(1) アンケート調査等の概要	・早期リニューアルオープンを望む声が多い。
(2) 指定管理者の自己評価	・大規模改修工事及び耐震工事により2年間休館のため、他会場で行われる（公財）津山文化振興財団主催の公演や、津山市文化協会芸術文化祭に対して、舞台音響や照明等の技術の提供や舞台制作・設置のサポートを積極的に行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年4月のリニューアルオープンに際し市民の関心も高まる中、多くの方々に来場していただける開館記念事業を検討する。また、市中心部にあり利便性の高い、市民の身近にある施設として利用促進の案内をホームページやフェイスブックにて発信し、リニューアルする施設等のPRを強化し今後の利用者の獲得を目指す。
(3) 市の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・休館後事務所を移転しているが、問題なく業務を遂行している。 ・リニューアルオープン後、県北の拠点として芸術文化の創造・発表の場となり、地域のネットワーク形成を図りつつ、地域の賑わい醸成・交流を期待する。また、他地域の劇場等との取り組みに関して、事業だけの連携でなく、公立劇場の将来を見据えた連携に力を入れていただく事を期待する。